

製本のススメ

Vol. 38

寒かった冬も過ぎ、若葉も芽吹いて桜の季節となりました。街にはピカピカの一年生が歩き、何となく心浮き立ちます。何か新しい事を始めてみたくなるっていうのも、解る気がしますね。

今回は**企画のためのチェック**なお話

昨今 顧客のニーズも多種多様で、デザインばかりが先行しがちですね。当社にも時々「これどうするの?」と言うような注文がやってきます。気持ちは解りますがねえ。。。そこで今回は企画段階で注意をしておかなければならない事項をまとめてみました。

① 用紙の選択

束の厚みを出す為に、内容や大きさに関係なく本文用紙に厚紙が使われる事があります。無線綴や上製本等に多く見られますが、これらは本を開くと本文用紙が強張った状態で開閉されるので、やがて本の背固めを壊すという結果になります。また、コストを優先するあまり紙目が逆目になっていたりしますと、どうしようもない本になります。しかしながら、**無線綴であっても束厚 1 ミリは必要**ですので、紙目を重視しながら用紙の厚みを決める事が大切です。

② 接着できない紙も有る

ホットメルト等の接着剤もたいぶ研究されてきましたが、**大豆インク等では接着剤との馴染みが悪い物もあります**。特に塗光紙では接着力が弱くなるという事故が、昨今多発しています。そのためにベタの印刷部分では、外折ノド側だけ 2 ミリ程度の印刷をしないという印刷会社も有るほどです。またPP加工面には接着できません。紙の種類は様々で全てに万能の接着剤は無く、その性質と用途を十分に考慮する必要があります。

③ 製本条件に合わない企画

例えば、三折込が一箇所によく入るものや、1 台の折丁に幾つも貼り込みが成されるなど一箇所に集中した企画(台割)がなされると、ノドや小口に隙間が多く出来てしまい本を均等に抑えることが出来ず、**仕上げ断裁で天地や小口に裂け傷が発生します**。



Teabreak

初対面の紹介をするときに、目下の方から紹介するとビジネスマナーでは教えていますが、何故でしょう。昔は格式のある家を訪問すると、まず取次ぎ・次に門番玄関番・諸大夫・執事・最後にやっと主人が現れます。この下から順に上がっていく順序が日常生活にも取り入れられたわけです。相撲や歌舞伎・落語や大晦日の紅白でも、この習慣が残っていて、最後に出てくる人が一番凄いのですね。さて、あなたは何番目?

by (株) 井関製本